

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・様々な学習において、ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた指導改善・方法の充実に努め、教育DXを推進する。	A	ロイロノートを効果的に活用した課題解決学習や協働的な学習を行った。スタサブを活用し、個に応じた学びを進めることができた。93%の児童が、学校や家の勉強にタブレット端末を進んで使っていると自己評価している。英語の授業では、コミュニケーションを図る活動を行い、90%の児童が英語の学習は楽しいと自己評価している。	様々な授業において、ICTを効果的に活用し、個に応じた学びを進めていることはよいと思う。ツールを活用しながらも楽しい学びがあった。 英語の学習では、対面やグループ等で相談しながら楽しく学習できるように、授業に工夫が見られた。	全ての教員が、ICTを効果的に活用することでさらに「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現できるよう、研修会や交流を適宜実施する。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・ぎふMIRAI'sの具現に向け、地域の教育力(地域人材・施設等)を活用した教育活動を実践する。 ・コミュニティ・スクールの組織や取組を積極的に活用し、地域と共にある学校づくりを推進する。 ・幼保小の連携を図り、カリキュラムの連続性について、指導内容や指導方法を見直し、児童の学びのギャップ解消に繋ぐ。	A	地域の探検や昔遊び、ミシンの学習等に、CSボランティアや地域の方に協力していただき、学びを深めることができた。地域の組織を活用することで、地域の方と触れ合う行事を行うことができた。97%の保護者に、外部人材や地域の特色を生かした教育活動を行っていること評価していただいた。 1年生と年長児による幼小交流活動を3回行った。また、教職員による連絡会議を3回もち、連携を密に行った。	温かい地域性を活かし、地域の力を活用した取り組みがされていることがよい。幼小交流においては、担任同士が話し合い、計画・交流体験・反省ができてよかった。また、今年度は特に1年生や5年生の主体的な姿勢によってより進められた。	今後も地域の人材や施設を活用し、地域の方と連携した教育活動をさらに実施する。 幼小交流に留まることなく、接続期におけるカリキュラムの検討を行い、小学校のスタートがスムーズになるようにする。
あたたかさとしがいにあふれる学校づくり	・実践的な研修の充実に図るとともに、業務を見直し、働きやすい職場環境を目指す。 ・教職員同士が互いに支え合い学び合う協働的な関係を醸成する。	A	不審者対応やICT、いじめ対応研修など、教職員にとって必要感のある研修を行うことができた。 学校行事や日々の活動について、共通理解を図ることができた。教材研究や困っていることなどを、学年会を中心に教職員同士で気軽に聞き合ったり、アドバイスをし合ったりすることができた。	若い先生方の意欲や力量から、学び合っている学校だと感じる。 支援の必要な児童が多いので、教員を増やす必要がある。	学校行事や業務をさらに見直すことで仕事の効率化を図り、働きやすい職場環境を目指す。 教職員が互いに支え合い、学び合い高まり合うために、相談・交流を常に行う。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	・組織的な校内体制を機能させ、教職員間で児童の共通理解を図り、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期対応にあたる。	A	支援が必要な児童について、随時学年間または全職員で共有することができた。いじめや生徒指導事案の対応を、早期に組織的に行うことができた。91%の保護者に、学校はいじめの未然防止や早期対応に取り組んでいると評価していただいた。	授業中児童は落ち着いており、明るい温かい雰囲気を感じられる。 幼稚園でも支援していた子たちが、小学校で伸びて成長していることがうれしい。	支援が必要な児童について、日常的に交流し、必要に応じて関係職員でケース会を行い、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応にあたる。
災害、事故に対する安全性の確保	・命を守る訓練や不審者対応の在り方を見直し、児童自らが「自分の命は自分で守る」意識を高める。 ・家庭や地域、関係機関との連携を図り、防災・防犯の意識を高める。	A	日頃から日常生活の安全に関する指導を行ったり、児童自身に考えさせたりする場面をつくった。実際に起こった時を想定した命を守る訓練や不審者対応訓練を行い、児童の意識を高めた。96%の児童が、事故や不審者から身を守る方法を知っていると自己評価している。 地域の協力を得て、防災教室を行うことができた。	地域ぐるみで防災について取り組み、防災への意識が高い。 地域での登下校の姿は、とてもよい。 今後、幼小連携として、引き取り訓練時の保護者の動きや連絡方法等も考えていく必要がある。	災害が起こった時に想定される様々な状況について、教職員、児童の訓練に取り入れる。 危険を予測し、考え、行動できる児童を、家庭や地域と連携して育成する。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・児童の安全安心な校内環境を第一に考え、定期的、臨時的、日常的に安全点検を実施する。 ・情報主任を中心に、個人情報、ICT機器の定期的な点検による適切な管理を行う。	A	日常生活の中で危険だと判断した事案については、すぐに教職員間で共通理解し、対応することができた。また、毎月の安全点検を徹底した。 情報セキュリティチェックやコンプライアンス研修を定期的に行い、教職員の意識を高めることができた。	適切に行われている。 小さいことも出し合い、共有することが大切。「ヒヤリハット」の交流と改善を進めるとよい。	定期的に点検を確実に行うことに加え、日頃から危険を予測し共通理解することで、安心・安全な環境づくりや個人情報漏洩に対する教職員の意識を高める。